

第 29 回全国小学生作文コンクール

「わたしたちのまちのおまわりさん」

受賞名：日工組社会安全研究財団賞（低学年の部）

タイトル： 私のおまわりさん

氏名： 池田 雫（イケダ シズク）

小学校名：香川県 高松市立牟礼南小学校 三年

いつもの朝、仕ごとに行くお父さんが

「あれ？に物がなくなっている。」

と、あわてて戻ってきました。なにやらお母さんと話をしている、

「けいさつに連絡しよう。」

という声が聞こえてきました。私はその一言で目がさめ、わくわくした気持ちになりました。きっと強そうなおまわりさんが、カッコいい大きなバイクのサイレンを鳴らしながらやってくるのだらうと思ったからです。

きたいして待っていると、そこにやって来たのは小さいバイクにのった、お父さんよりもせのひくい、やさしそうなおまわりさんでした。私のイメージとはちがっていて、ショックでした。なんだか弱そうだし、こんなバイクでは人を追いかけるのかな、と不安になりました。

つぎの日の朝、私が新聞を取りに行くと、あのおまわりさんが家の前を小さなバイクで通り、私に気づいてあいさつしてくれました。

そして登校の時に歩いていると、はたをふって交通ゆうどうをしているおまわりさんがいました。そのおまわりさんの近くには、朝見た小さなバイクがとまっていました。顔をのぞきこむと、やっぱりあのおまわりさんでした。おまわりさんは、

「気を付けてね。行ってらっしゃい。」

と言ってくれました。

その日は習い事で夜おそくに家に帰ってきました。車を止めて家に入ろうとすると、

「こんばんは。おやすみなさい。」

と、だれかが言ってきました。その声は登校の時に聞いた声と同じで、「あのおまわりさんだ。」とすぐに分かりました。その時、おまわりさんは私たちが安全にらせるように、いつも見守ってくれていたことに気がつきました。

あのおまわりさん、私のかっこいいおまわりさん、いつもありがとうございます。